



# Beans Phoenix

No.7

【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

8月4日に、大豆部会の作見会を開催し管内4ヶ所の大豆圃場を巡回しました。各大豆圃場の管理は行き届いており、生育は良好でした。大豆圃場を見ながら営農指導員・普及員より現在の大豆生育状況や今後の畝間かん水や病害虫防除の説明を受け、収穫が終わるまでは気を緩めることなく、気を引き締めて管理を行っていく事を確認しました。

大豆部会『作見会』調査(調査日:8月4日)\* 調査箇所は7月20日と異なります。

栽培区分	調査日	苗立ち本数 (m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	葉令 (葉)	目標苗立ち本数 (m <sup>2</sup> )	苗立ち率
普通培土	8月4日	13.8	60.0	11.9	16	86.3%
	7月20日	16.9	58.0	6.8		105.6%
狭畦密植	8月4日	27.3	64.0	14.4	23	118.7%
	7月20日	34.8	56.0	7.4		151.3%

### 『ウコンノメイガ発生状況』

- 発生量は昨年より少ない。
- ウコンノメイガ防除は、7月下旬から実施され、管内の防除は概ね終了しています。



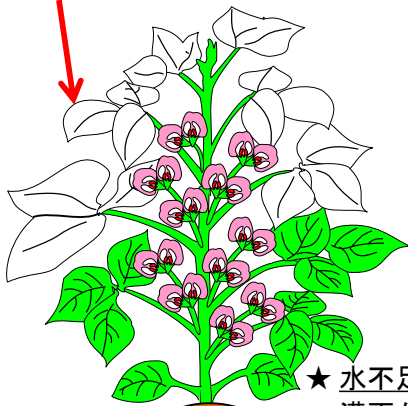
## 里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント

### 1. 乾燥害対策

開花後(7月下旬~9月上旬)は着莢・莢伸長・子実肥大のために最も水分が必要な時期です。土壤水分を維持するために、暗渠栓を閉じ畝間かん水を実施して、落花・落莢の軽減を図りましょう。

#### ★ 水不足の症状①

高温・乾燥による葉の裏返り



#### ★ 水不足の症状②

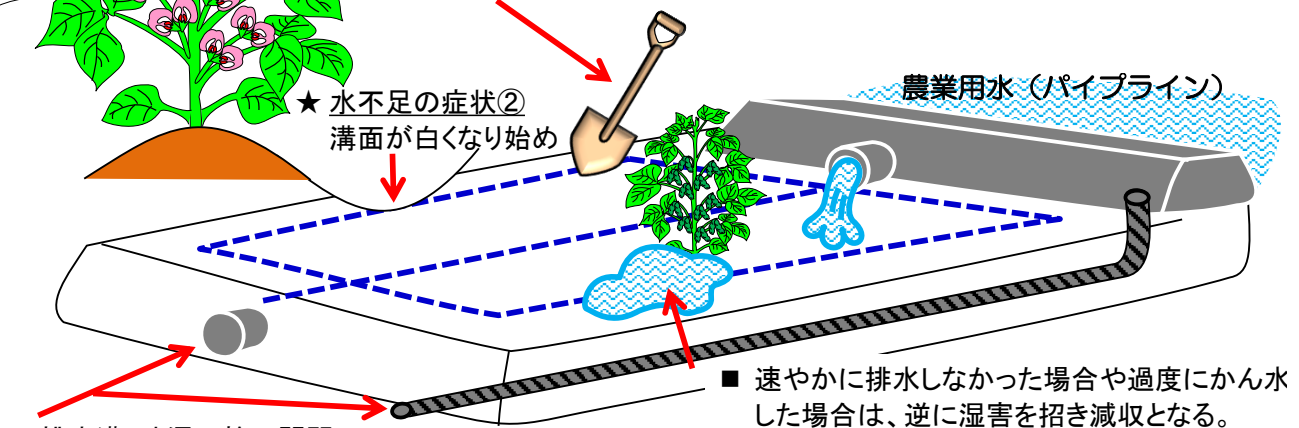
溝面が白くなり始め

#### 【畝間かん水の目安】

- 無降雨期間が7日以上続き、溝面が白くなり始めたら実施しましょう。
- 日中、3割以上の葉が裏面を見せている状況での灌水効果は大きい。

#### 【畝間かん水のポイント】

- 短時間で水を圃場に流し込み、圃場全体に水が行き渡ったら、湿害回避のため速やかに排水しましょう。
- かん水はできるだけ、地温の低い夕方または早朝に行う。
- かん水の管理を容易にするため、排水溝の手直しを行いましょう。



#### ■ 排水溝・暗渠の栓の開閉。

畝間かん水時は閉める→畝間かん水完了後は開けて排水→排水完了後は土壤水分を保つため栓を閉める

■ 速やかに排水しなかった場合や過度にかん水した場合は、逆に湿害を招き減収となる。

### 2. 病害虫対策(2回目の実施)

莢伸長期(8月中旬)から子実肥大期以降(8月下旬)にかけては、紫斑病の予防と害虫防除を行うため殺菌殺虫剤(混合剤)を散布する。粉剤:マネージトレボン粉剤DL 液剤:アミスタートレボンSE

\* 防除時期・薬剤については、担当営農指導員へ相談下さい。